

読書力評価の国際標準にむけての一考察(2)

——アメリカのNAEPを中心に——

足立 幸子

1. 本稿の目的

本研究の最終的な目的は、学校教育における児童・生徒の読書活動を推進し活性化するような読書指導に役立つ読書力評価とはどのようなものかを検討することであり、本稿は同じ目的で執筆された足立(2003)に続くものである^①。この目的は、一つの問題意識に基づいている。それは、現在の我が国の状況において、読書力評価を考えるとときには「国際標準」を視野に入れる必要がある、というものである。我が国では2000年に初めてPISA(Programme for International Student Assessment, 経済協力開発機構による15歳の生徒の学習到達度調査)という国際的な読書力評価を経験したが、これは、2003年、2006年……と3年ごとのサイクルで実施されることになっている^②。一般的に、このような「国際標準」は、世界の国々の読書に対する事情・考え方・評価の多様性を前提としている。読書の文化差と言ってもよい。事実、上記のような国際調査への参加は、我が国の読書に対する考え方や評価の特徴を、調査内容に対する「違和感」という形で感じさせてくれるものである。しかし一方で、国際調査はそれ自体、多様性や文化差を少なくする機能も持っている。このような状況において、我が国の読書力評価を検討するには、「国際標準」を視野に入れる必要がある。すなわち、「国際標準」を分析することで得られた視点を、我が国の読書力評価にも組み込んでいくということである。そこで、本稿では、「国際標準」に準じたテストを分析することにより、我が国の読書力評価に対する示唆的な視点を得ることを目的とする。

2. 方法(テストの特定と情報収集の方法)

けれども、実際の国際調査は、調査の主体、調査の目的、参加国、調査の期間、調査の方法などによって、様々であり、一通りの「国際標準」を示すことは困難である。また、本研究は、読書指導に生かしていくということを前提にして、学校における読書力評価を考察しようとするものである^③ので、PISAのような学校教育を問わない国際調査^④よりも、むしろ、実際の学校教育に用いられているような読書力評価に関心がある。実際の「国際標準」は、すべての国の様々な特徴の平均ではなく、より影響力のある国の読書力評価をより反映したものになる。これらのことから、本研究では前稿より一貫して、国際調査そのものを検討するのを避け、より影響力のある国々の学校教育における読書力評価、すなわち、「国際標準」よりも一つ小さい単位としての「国内標準」に焦点をあててきた。そして、本稿では、アメリカにおける国内標準レベルの読書力評価である、NAEP(National Assessment of Educational Progress, 全国教育到達度評価)に焦点

をあてる。アメリカは、前回取り上げたイギリス同様、読書指導の研究においても、教育評価においても、我が国に対して、また、国際的に、強い影響力を持っている。表1にアメリカの代表的な読書力テストを示す。「国際標準」「国内標準」「州標準」のテスト例である。アメリカは、州ごとに独自のスタンダード（その州での教育内容を示したもの）を持っている上に、様々なレベルのテストが開発されているので、厳密な意味では「国内標準」を持っていない。しかし、本稿では、「国内標準」を最も示していると考えられるNAEPを取り上げたい。なぜなら、このテストは、すべての州で実施されており、機能的に、前稿で取り上げたイギリスのナショナル・テストに最も近いためである。また、NCLB法（No Child Left Behind Act）の制定など、「国内標準」を持つようとするアメリカの教育政策に影響を与えたテストでもある。そこで、本稿では、NAEPの読書力評価の方法を分析することを通して、我が国における読書力評価の検討に有益な視点を取り出すこととする。

NAEPの調査の結果は、この調査を実施しているNCES（National Center for Education Statistics）から、The Nation's Report Cardという名での報告書として、出版されている。2004年3月現在では、報告書の2003年版はまだ出版されていないので、本稿では、2002年版の情報を

表1 アメリカにおける標準テスト例

テストの名前と読み方	実施団体	規模	参加者	実施学年・方法	実施の歴史・頻度
PIRLS パールズ (Progress in International Reading Literacy Study)	IEA (International Association for the Evaluation of Educational Achievement)	国際	アルゼンチン、ベリーズ、ブルガリア、カナダ、コロンビア、キプロス、チェコ共和国、イングランド、フランス、ドイツ、ギリシア、香港特別区、ハンガリー、アイスランド、イラン、イスラエル、イタリア、クウェート、ラトビア、マケドニア、モルダヴィア、モロッコ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ルーマニア、ロシア連邦、スウェーデン、シンガポール、スロヴァキア共和国、スロヴェニア、アメリカの34か国	学年：4年生 方法：サンプリング	歴史：1991年より開始。 左の参加者は2001年の参加国である。(PIRLS 2001と呼ばれている。) 次回は2006年であり、これへの我が国の参加は、本稿執筆時点では確認できない。 頻度：5年に1度。
NAEP ネイブ (National Assessment of Educational Progress)	NCES (National Center for Education Statistics)	国内	アメリカ51州	学年：4年生、8年生、12年生 方法：サンプリング	歴史：1969年より前身開始。1999年より現在の形式で実施。 頻度：毎年。
ISAT アイサット (Illinois Standards Achievement Test)	ISBE (Illinois Standard Board of Education)	州	イリノイ州	学年：3年生、5年生、8年生 方法：全員	歴史：1997年より開始。 頻度：毎年。

扱う。しかし、一部の結果は、Highlights という小冊子になっている。また、デモンストレーション・ブックレットという、子供の手元に渡す問題と回答用紙と質問紙をあわせて冊子体にしたものがあるのでそれを参考とする⁽⁴⁾。

テスト問題は、次回にも用いられるために回収される。しかし、このテストは公の性格を持っているので、「情報開示」として全体の25%が公開されている。今回は、4年生を中心に、入手できうる限りの新しいテスト問題ということで、NCES のウェブ⁽⁵⁾上のテスト問題を取り上げる。だが、これら最新の問題と、デモンストレーション・ブックレットのテスト問題を比べてみた結果、問題の構成は同じであり、難易度もほぼ同じであると判断できる。

さらに、本稿においては、読書力に関するアメリカの国内標準を探ることを目的とするが、アメリカの子供に対して実施されている、国際レベル、州レベル、その他のテストについても、触れることにした。比較して、より NAEP の特徴を明らかにするためである。NAEP は4年生、8年生、12年生が調査対象の学年であるが、国際テスト PIRLS が扱っているのが4年生であることと、筆者の関心が日本の小学生・中学生における読書力評価であることから、今回は4年生を中心に取り上げることにした。

3. NAEP

NAEP の実施の目的は、アメリカの全国の4年生・8年生・12年生がどのような学力を有しているかを、教育行政、教師、子供の親も含む一般市民が知ることにある。その結果は、学力における、平均的な熟達度、到達レベル、人種・民族・ジェンダー、地方、学校の種類、親の教育レベル、教師の教育上の強調点などを明らかにするものであると考えられている。このテストは、1969年から始められ、歴史的な比較もできるようになっている。その時代によっても学年によっても異なるが、現在は、「読書 (reading)」「数学」「理科」「作文 (writing)」「アメリカ史」「公民」「地理」の各科目からなっている。そのうち、本稿では「読書」を分析の対象とする。

NAEP の調査紙は、二つの部分で構成されている。質問表 (questionnaire) の部分と、読書力を評価するテスト形式の部分である。それぞれについて、質問項目例を示し、考察を加える。

3.1 NAEP における質問表

3.1.1 質問表の質問項目例

質問表は、子供の一般的な背景についての15項目の質問からなる一般背景質問表 (General Background Questionnaire) と、子供の読書活動に関する背景を尋ねる24の質問からなる読書背景質問表 (Reading Background Questionnaire) の二種類がある。

一般背景質問表は、人種、家庭環境 (家庭における親の学歴、言語、新聞購読、雑誌の定期購読、蔵書数、コンピュータの有無、百科事典の有無、世界地図の有無、学校での学習内容を家族と話す頻度、テレビ視聴時間)、学校における学習環境 (学校や宿題における読書のページ数、欠席日数) を尋ねるもので、3～5の選択肢から適切なものを一つ選択する。

読書背景質問表の質問項目は、表2の通りである。

表2 読書背景質問表の質問項目（4年生）⁶⁾

1. 私は本を読むとき、何かを学ぶ。
2. 読書は、私の好きな活動のうちの一つだ。
3. 物語（stories）や手紙のような書くことは、私の好きな活動の一つだ。
4. 書くことは、私の考えを共有する（share）ことを手伝ってくれる。
5. 自分の時間で読書にかける時間はどれくらいですか。
6. あなたは、どれくらい頻繁に、友達か家族と一緒に読んだことについて話しますか。
7. あなたは、どれくらい頻繁に、学校の外でプライベートな日記・日誌を書きますか。
8. あなたは、どれくらい頻繁に、学校の外で楽しみのために物語（stories）や詩を書きますか。
9. あなたは、どれくらい頻繁に、友達や家族にEメールを書きますか。
10. あなたは、どれくらい頻繁に、学校の外で、楽しみのために物語（stories）や詩を読みますか。
11. あなたは、どれくらい頻繁に、学校の外で、本当のもの（real things）（例えば恐竜や他の国についての事実など）について学ぶために読みますか。
12. あなたは、どれくらい頻繁に、学校の外で、楽しみのために、インターネットで見つけた物語（stories）や記事（articles）を読みますか。
13. 今年度、あなたはどれくらい頻繁に、授業で読んでいるものについて、クラス全体での話し合いに参加していますか。
14. 今年度、あなたはどれくらい頻繁に、自分が読んでいるものについて、ペアや小グループで話していますか。
15. 今年度、あなたはどれくらい頻繁に、授業で読んでいるものについて、日誌に書くこと（write a journal）をしましたか。
16. 今年度までに、あなたは何回くらい読書レポート（a book report）を書いてきましたか。
17. 今年度までに、あなたは何回くらい、自分が読んでいるものについて、授業でプレゼンテーションをしてきましたか。
18. 今年度までに、あなたは何回くらい、自分が読んでいるものについて学校のプロジェクトをしてきましたか。
19. あなたは、どれくらいの頻度で、読書（reading）のためにペーパーバックの本・ソフトカバーの本・雑誌を読みますか。
20. あなたは、どのくらいの頻度で、理科（science）のためにペーパーバックの本・ソフトカバーの本・雑誌を読みますか。
21. あなたは、どのくらいの頻度で、社会科か歴史（social studies or history）のためにペーパーバックの本・ソフトカバーの本・雑誌を読みますか。
22. あなたは、どのくらいの頻度で、算数（math）のためにペーパーバックの本・ソフトカバーの本・バズルの本・雑誌を読みますか。
23. 今年度までに、あなたはどのくらいの頻度で、読書を含んだテストや課題（assignments）における質問にして長い答えを書くように求められてきましたか。
24. あなたが学校で読書の課題をするとき、あなたの先生は、どれくらいの頻度で、あなた自身で選んだ本を読むための時間をくれますか。

表2では、回答するための選択肢を省略した。質問1～4は、同意の程度を聞く、「A そうは思わない」「B 少しそう思う」「C とてもそう思う」の3つの選択肢から選ぶ。質問5～24は、頻度を表した選択肢となっている。例えば、質問5の選択肢は、「A ないかほとんどない」「B 一ヶ月に1回か2回」「C 少なくとも一週間に1回」「D ほとんど毎日」の4つである。質問の内容によって頻度の表し方は多少異なる。例えば、質問18の選択肢は、「A ない」「B 1回」「C 2回か3回」「D 4回か5回」「E 6回かそれ以上」となっている。

質問1～4は、読書及び作文に対する、子供の感じ方・考え方を問うている。質問5～12は、

学校外での子供の読書活動の頻度を尋ねている。ただし、読書活動と言っても「読んだことについて話す」「日記・日誌を書く」「物語や詩を書く」「Eメールを書く」「本当のものを読む」「インターネットの物語や記事を読む」と幅広く捉えており、これらの活動が読書力に影響を与える活動であると考えられていることがうかがえる。質問13～24は、学校における読書活動に焦点をあてている。特に太字になっている「読書」「理科」「社会科」「歴史」「算数」などは、授業内容あるいは科目名であり、学校のカリキュラムに位置づけられた読書活動を見ることができる。別の言い方をすれば、これらの項目から、アメリカの学校で標準とされている学習活動（授業中の授業内容）を読み取ることもできる。例えば、質問14, 17, 18では、自分の読んでいるものについて「ペアや小グループで話す」「授業でプレゼンテーションをする」「プロジェクトをする」とあり、このように、自分の読書が学校の授業の中に生かされる経験が、アメリカの子供にはあるのだということが分かる。また、このような経験が、その子供の読書力に影響を与えるという考え方に基づいて、NAEPは作られているのである。質問19～22では、様々な授業内容において読むことを、読書活動としてとらえていることが分かる。また、アメリカの学校を訪問したり、出版社のカatalogなどを眺めてみたりすると、事実、これらの授業を支え様々な「ペーパーバックの本」「ソフトカバーの本」「雑誌」が多数出版され、授業に用いられていることが見られる。

3.1.2 質問表に対する考察

NAEPでは、読書力をはかろうとするときに、子供の読書を取りまく環境、主観、活動を広くとらえて調査しており、それらが子供の読書力に影響を与える要因として考えられている。これらの個々の活動は、我が国で国際標準の読書力評価を考えるときに、読書力評価のファクターとしてみるができるということ、この質問紙項目は示している。

我が国では、読書調査という名前でこのような調査を行うことがあるが、「読書力を評価する」というときにも、これらの項目を視野に入れることが重要である。また、読書力は学校外での活動や子供の個人的な主観だけにあると考えるのではなく、学校における様々な活動が彼らの読書の一端を担っているということを改めて確認できる。すなわち、これは、例えば教師が自分の学級の子供たちの読書力を評価するときに、自分が行っている授業内容も子供たちの読書の一部として評価されるべきであるということを示したものであるともいえよう。

3.2 読書力テストの問題例

3.2.1 NAEPにおける評価の範囲と読書材

たいていの読書力評価は、その評価の方法でどのような読書の力を評価するのかを規定する。NAEPの読書力評価の定義は以下の通りである⁷⁾。

NAEPの読書力評価は、生徒の理解力、解釈力、異なるタイプのテキストについての批判的思考力を測定する。この、異なるタイプのテキストとは、物語(stories)、論説・記事(article)、文書(document)などで、それぞれ、生徒が、文学的経験のため(for literary experience)、情報を獲得するため(to gain information)、課題を達成するため(to perform a task)に読むものであ

る。評価は、学校の内外で生徒が読むことのできる典型的な出版物やその他の材料から選ばれた読書材^⑧で構成する。

この定義を受け、読書の目的について、表3のように説明している。

すなわち、読書の目的を示したものではあるが、同時にジャンルを示したものである。この枠組みにしたがって、NAEPでは、文学的テキスト、情動的テキスト、課題的テキストの3種類のテストを準備している。それぞれの割合は表4のようにになっている。

本稿では、4年生の事例を中心に扱いたいと考えているが、4年生では課題的テキストは実施されていないので、8年生を扱うことになる。したがって、本稿では、4年生の文学的テキスト、4年生の情動的テキスト、8年生の課題的テキストのそれぞれ1例ずつ、計3例を取り上げて、論じることとする。

3.2.2 読書の側面

以下、3つの問題例を取り上げるが、その前に、NAEPが読書をどのようにとらえ、読書のどのような側面 (aspects) について評価しようとしているのか、触れておく必要がある (表5)。なぜなら、その読書の側面こそが、以下に取り上げる各問題例の質問を構成しているからである。

これらは、文学的テキスト・情動的テキスト・課題的テキストのいずれでもはかりうる読書の側面であると想定されている。各問題の質問1つに対して1つずつ割り当てられている。この読書力テストには、アメリカの教育現場でよく行われている、音読がすらすらできること (fluency) や、語の発音 (sounds)、綴り (spelling) などの知識についての評価は含まれていない。後に、問題例にあたりながら説明する。

表3 NAEPにおける3つの読書の目的 (contexts for reading) についての説明^⑨

文学的経験のための読書 (Reading for literary experience)	テーマ、できごと、登場人物、背景、プロット、行動、文学作品の言語などについて、読者に探究させるもの。 小説、ショート・ストーリー、詩、伝説、伝記、神話、民話など、様々なタイプのテキストが含まれる。
情報のための読書 (Reading for information)	現実世界の側面を読者に伝えるもの。 テキスト・ブック、一次資料・二次資料 (primary and secondary sources)、新聞、雑誌記事、エッセイ、スピーチなど、情報をもたらす最も一般的なものである。
課題の達成のための読書 (Reading to perform a task)	何かを成し遂げるために読むもの。 図表、バスや列車の時刻表、ゲームや修理の説明書、教室や図書館利用の手続き、税金や保険の申込用紙、レシート、選挙登録の書類、地図、国民投票、保証書、事務的なメモなど、課題を達成するための実践的テキストである。

表4 読書フレームワーク 読書の目的 (purposes for reading) と学年の割合^⑩

	4年生	8年生	12年生
文学的	55%	40%	35%
情動的	45%	40%	45%
課題的	**	20%	20%

** 4年生では評価されない

表5 NAEPの読書力評価における4つの読書の側面⁽¹⁾

A 一般的な理解を形作る	<p>一般的な理解を形作るために、読者は全体としてテキストを認識し、その包括的な理解をしなければならない。 生徒は、例えば、その節 (passage) の話題を与えられたり、その記事の目的を探ったり、物語のテーマを振り返ったりすることで、一般的な理解ができていようかどうかを見られることになる。</p>
B 解釈を展開する	<p>解釈を展開するために、読者は何を讀んだかについての理解をより完全なものにするために、最初の印象を拡張しなければならない。 この過程は、テキストの部分と特別な情報に焦点を当てることを結びつけていくことを含む。この側面を評価するための質問は、情報の二つの断片の関係についての推論や、行動の理由を特定する根拠などを問う。</p>
C 読者とテキストのつながりをつける	<p>読者とテキストのつながりを作るために、読者はテキストの情報と自分の知識や経験を結び付けなければならない。 この過程は、テキストにある考えを現実世界に应用することを含む。このタイプの質問に対する生徒の反応はすべて、信用を得るためにテキストに即していなければならない。</p>
D 内容と形式を吟味する	<p>テキストの内容と形式を吟味することは、批判的に評価すること、比較したり対比したりすること、皮肉・ユーモア・組織などの特徴の効果を理解することを要求する。 この読書の側面を評価するために用いられる質問は、読者が、テキストの一部に基づいていること、客観的に認識していること、質や適切さを評価することなどを求める。質問は、ある特定の目的でのそのテキスト有用性、言語とテキストの要素の評価、筆者の目的と文体についての考えなどを問う。</p>

3.2.3 解答形式と評価規準

NAEPの解答形式には3種類ある。1つは、多項選択式で4つの選択肢の中から、最も適切な1つを選ぶというものである。多項選択式は、その選択肢のうち1つだけが正解であるので、「正解」「不正解」のどちらかで評価される⁽²⁾。残りの2つは、記述形式である。5行以下の比較的短文記述形式と、19行・20行の長文記述形式に分かれる。短文記述形式は「完全な理解」「部分的、あるいは表面的な理解」「ほとんどあるいは全く理解していない」の3段階か、その解答が「受け入れられる」「受け入れられない」の2段階で採点される。長文記述形式の方は、その解答が基準を十分に上回っているという意味で「拡張的 (Extensive)」, 必要最低限は抑えられているという意味での「必須な (Essential)」, さらに「部分的 (Partial)」, 「不満足な (Unsatisfactory)」の4段階で採点される。公開されている問題の多項選択式以外のすべての質問に、それぞれの質問における答え方の基準と、子供の解答例に基づく採点例が示されているので、後で個々の問題例について見ていくこととする。

3.2.4 問題例と分析

まず、文学的テキスト問題、情動的テキスト問題、課題的テキスト問題について、一例ずつ示す。紙面の都合上、読書材は要約とする。多項選択式（「4タク」と表記する）の選択肢も大部分は省略する。記述形式については、短文記述形式・長文記述形式ともに、与えられた記述スペースを「～行」と表記する。

問題例1 4年生文学的テキスト 「川」

粗筋：

実話をもとに創作された物語である。コーリとエリサの兄はが凍った川を遊んでわたっている時に、飼い犬のミニーが氷の割れ目にはまってしまって抜け出せないことに気付いた。困って、たぶん助からないだろうと思うコーリ。何とか助けたいと泣きじゃくるエリサ。コーリは解決を思いついた。それは、氷の上に寝転がって、這ってミニーのところに行って、ミニーを引っ張りあげようとするもので、エリサにも同じように寝転ばせて自分の膝を押さえさせた。エリサのウールコートが役立ち、ミニーを寒さから守った。

質問：

1. コーリが直面した主な問題は何ですか。(4タク)
2. あなたはこの物語がどきどきするものだと思いますか。この物語から一つの例を用いてなぜそうかあるいはなぜそうではないか説明しなさい。(5行)
3. コーリとエリサがこの経験から得た最も重要な教訓のうちの一つは何ですか。(5行)
4. どのようにエリサとコーリは、似ていたり違っていたりしますか。この物語から例を挙げてあなたの意見を説明しなさい。(20行)
5. コーリがミニーに何が起きているかを発見したとき、彼は、(4タク)
 - A) エリサがミニーを見ていなかったことをとがめた。
 - B) ミニーが自分で抜け出すことはしないだろうとエリサに言った。
 - C) ミニーの助けを呼ぶためにエリサを家に向かわせた。
 - D) ミニーが死んでしまうだろうとエリサに予告した。
6. もしもエリサが彼女のウールのコートを氷の上に置かなかったら、物語はどのように違って終わったと思いますか。また、そう思ったのはなぜか説明しなさい。(5行)
7. この物語に題名を一つつけなさい。物語の中から例をとって、なぜそれが良い題名か説明しなさい。(5行)
8. この物語は、次のこととしてとてもよく書かれている。(4タク)
 - A) 現代のおとぎ話 B) 教訓を伴ったミステリー C) 現実の冒険 D) SFの一部
9. なぜコーリは、ミニーが生き残れないと思ったのですか。物語の中から例を用いてなぜか説明しなさい。(5行)

問題例2 4年生情動的テキスト 「ウォンバットに注意しろ！」

要旨：

僕たちがオーストラリアのアデレードの北東部を車で60マイルほど行った時、ひし形のウォンバット標識が突然現れた。ウォンバットに注意せよという警告の標識だ。

ウォンバットは、オーストラリアに生息する有袋類の一種で、コアラと比較されることが多いが、より強い前肢と力のあるつめを持ち、地下に巣穴を掘る。草食動物で、草や木の根をそのつめで引き裂いて食べる。ウォンバットの子供は、一度につき一頭、通常オーストラリアの冬である、5月～7月に生まれる。その後の4ヶ月間、母親の育児嚢の中で、母親の乳を得て、どんどん大きくなる。育児嚢は、強い筋肉でできており、土を掘っているときには、子供を埃から守っている。

ウォンバットは、おとなしい動物だ。もしも君がオーストラリアに住んでいたなら、夜の間にじゅう見張っていなければ、彼らに出くわすのは難しい。かつては、いくつかの場所にウォンバットは多数生息していたが、死に絶えてしまった。今は、保護されていて、たぶん少しずつ増えつつあるのだろう。今度オーストラリアをドライブしたら、僕たちは、ウォンバットに注意しないとイケない。

質問：

1. この文章が書いていることを最も示しているのは、(4タク)
2. ウォンバットはどこに生息するのでしょうか？(4タク)

3. ウォンバットとコアラが似ている点と異なる点の一つずつ書きなさい。
似ている点 (2行) 異なる点 (2行)
4. 有袋類について書いてある段落の情報を示しなさい。(5行)
5. ウォンバットはたいていどこで住んでいるのでしょうか。(4タク)
6. コアラ以外の、あなたが知っている動物の一つ選んで、ウォンバットと比べなさい。(5行)
7. ウォンバットが人々にそれほど頻繁に目撃されないのはなぜですか。(4タク)
8. ウォンバットが眠るところ (area) を描写しなさい。(5行)
9. 食べ物を得るために、ウォンバットが使っているものは、自分の (4タク)
A) 鼻 B) 耳 C) つめ D) 袋
10. もしも人間に会ってしまったら、ウォンバットはおそらく何をやるのでしょうか。(4タク)
11. なぜ、オーストラリアは、ウォンバットを守るために保護動物指定をしているのでしょうか。(5行)
12. 人々がウォンバットをペットとすべきでない理由を二つ挙げなさい。あなたの答えを支持する段落からあなたが学んだことを用いて書きなさい。(19行)

問題例3 8年生の課題的テキスト 「バーゲン・ベースメント」

要旨：中古品を販売する広告である。日本には全く同じような形式の消費文化がないので、一部を訳さずに示す。広告は、「25ドル以下」が103商品、「26ドル以上100ドル以下」が41商品、アルファベット順（数字を含む場合はAよりも前）に並んでいる。

\$25 and under

AIR CONDITIONER - Fedders, large works \$25. 555-1076

ALL KINDS OF GOLF CLUBS - \$20. after 3PM. 555-5507

ANTIQUUE WARDROBE - Needs lt. work. 1st \$25. 555-1326 など

\$26 to \$100

6 NEW CABLE REMOTES - For TKR box \$35/ea. 555-3950

AIR CONDITIONER CASEMENT WINDOW - \$100 firm. 555-5422

BED - 4 poster maple \$50, cushion patio set, \$70. 555-8876 など

質問：(括弧内の表示は、文学的テキストの場合に準ずる。)

1. バーゲン・ベースメントの広告は、「25ドル以下」と「26ドルから100ドル」の項目で分けられています。広告が何であるかこの情報を編成する他のやり方を示しなさい。(5行)
2. これらの分類された広告の中でたいてい認められる情報3タイプを示しなさい。(4タク)
A) もとの値段、品物の使用年数、品物の大きさ
B) 品物の説明 (description), 住所、電話番号
C) 電話番号、品物の説明、品物の値段
D) 品物の状態、売り手の名前、電話を受けられる日と時間
3. 無料の広告をバーゲン・ベースメントとのセクションに位置づけることは可能です。もしもあなたが無料の広告をおきたかったら、あなたの品物は以下のように異なるに違いありません。(4タク)
A) 5日間販売 C) 状態よし
B) 25ドルかそれ以下の値段 D) 鑑定士による鑑定済み
4. 自転車を買うことを考えてみましょう。バーゲン・ベースメントのセクションに載っている自転車の広告を見なさい。どれが一番興味深い広告か述べなさい。また、選択するために、あなたは広告からどのように情報を得たか説明しなさい。(5行)
5. 省略形は広告に役に立ちます。なぜならそれらは(4タク)
A) 限られたスペースの中で情報を伝達するから
B) 異なる解釈を許すから
C) それぞれのセクションをより興味深くするから

- D) 一つのセクションの中に似ている品物をまとめるから
6. 新聞の中で1ドルのバーゲン・ベースメントの広告を位置づけるために受け入れられる方法は何でしょうか。(4タク)
- A) 電話申し込み, クレジット・カード払い C) 手紙申し込み, 現金払い
B) 電話申し込み, 為替払い D) 手紙申し込み, 小切手払い
7. バーゲン・ベースメント・分類広告に25ドル以下の品物を出品することを考えてみましょう。以下の広告用紙に直接, 書き込みなさい。書き込むことは, ジョーンまたはジェーン・ジョーンズからの出品で, 住所は1210 Locust Street, Midtown, NY 00001. 電話番号は, (212)55503456 ということです。(書式省略)
8. バーゲン・ベースメント・分類広告の書式を改善する方法を示しなさい。(5行)
9. もしもこの書式で広告が出されるとしたら起こりうる間違いは何か3つ書きなさい。(5行)

3.3 分析と考察

3.3.1 問題における読書材(テキスト)についての考察

我が国においても, 国語科で扱う文章を「文学」と「説明文」に大別し分けて扱ってきた。この意味においては, 文学的テキストも情動的テキストも新しいタイプの読書材ではない。

しかし, 課題的テキストは, 我が国では, 見たことがない。我が国で「広告」を扱うことがあったかどうかは分からないが, かりにあったとしても, それは「説明文」の中に含まれるのではないだろうか。すなわち, この課題を達成するという目的の読書では, 単に広告を読んで情報を得るというだけでなく, 商品を売るために広告を書くという活動, 広告それ自体を改善したりするために何をしたらよいかを考えるという活動までも, 含めるのである。「文学」「説明文」含まれないものを, 読書力評価の読書材とするという発想は, 読書という行為を実生活に即して幅広くとらえようとしているとみられ, 我が国の読書力評価を考察するときに示唆を与えてくれる。しかし, 一方で, 課題的テキストは, 小切手の使用や自分の持ち物を商品として出品することなどについて, 生活経験があるか経験がなくても生活の中から知識を持つということを求めていると言える。そのために, 小学校4年生では扱わないとも解釈できる。このような小切手の文化は我が国にはあまりないし, ましてや中学2年生にはなじみがないと想定される。この問題をそのまま翻訳して我が国の中学2年生に行ったとしても, それは, 我が国の中での課題的な読書を評価しているとは言えない。つまり, 読書活動が, その国の経済活動や文化と密接に関係していることを示すものである。

3.3.2 問題例における各質問の分析

そこで, 3つの問題例における質問について, 表6にまとめた。

(1) 3つの問題例における読書の側面

前述のように, NAEPでは, 「A 全般的な理解を形作る」「B 解釈を展開する」「C 読者とテキストのつながりをつける」「D 内容と形式を吟味する」の4つの読書の側面を想定している。すべての質問は, その側面のいずれか1つをはかるものとして設定されている。この4つの側面は, 読書中の思考の流れを表しており, 単純に書いてあることを受け取るというのではなく, 読

表6 3つの問題例における、読書の側面、解答形式、採点の段階と評価規準

読書の目的と テキストの種類	質問 番号	読書の側面	解答 形式	採点の段階と評価規準 (選択肢の場合は空白にしてある)
文学的経験のた めの読書 文学的テキスト 「川」 4年生	1	A 全般的な理解	4タク	
	2	C つながり	短5行	3 完全/部分的・表面的/ほとんどなし
	3	B 解釈	短5行	3 完全/部分的・表面的/ほとんどなし
	4	B 解釈	長20行	4 拡張的/必須な/部分的/不満足な
	5	B 解釈	4タク	
	6	D 内容と形式	短5行	3 完全/部分的・表面的/ほとんどない
	7	B 解釈	短5行	3 完全/部分的・表面的/ほとんどなし
	8	B 解釈	4タク	
	9	B 解釈	短5行	3 完全/部分的・表面的/ほとんどない
情報のための読 書 情動的テキスト 「ウォンバット に注意しろ！」 4年生	1	A 全般的な理解	4タク	
	2	B 解釈	4タク	
	3	B 解釈	短4行	2 受け入れられる/受け入れられない
	4	B 解釈	短5行	2 受け入れられる/受け入れられない
	5	B 解釈	4タク	
	6	C つながり	短5行	2 受け入れられる/受け入れられない
	7	B 解釈	4タク	
	8	B 解釈	短5行	2 受け入れられる/受け入れられない
	9	B 解釈	4タク	
	10	B 解釈	4タク	
	11	B 解釈	短5行	2 受け入れられる/受け入れられない
	12	B 解釈	長19行	4 拡張的/必須な/部分的/不満足な
課題の達成のた めの読書 課題的テキスト 「バーゲン・バ ースメント」 8年生	1	D 内容と形式	短5行	3 完全/部分的・表面的/ほとんどない
	2	B 解釈	4タク	
	3	B 解釈	4タク	
	4	C つながり	短5行	3 完全/部分的・表面的/ほとんどない
	5	D 内容と形式	4タク	
	6	B 解釈	4タク	
	7	B 内容と形式	短特殊	3 完全/部分的・表面的/ほとんどない
	8	D 内容と形式	短5行	3 完全/部分的・表面的/ほとんどない
	9	B 解釈	短5行	3 完全/部分的・表面的/ほとんどない

者が自分の目的や問題意識に基づいて主観的構成的に読みを作り上げていくという、近年の構成的読書観に基づいている。これらは、文学的テキスト・情動的テキスト・課題的テキストのどれにも通用する、読書の基本的な側面である。

「A 全般的な理解」は、文学的テキスト及び情動的テキストの最初の質問になっている。それぞれ、その文学的テキストの主要な問題をとらえたり（1，括弧内は質問番号，以下同じ）、情動的テキストの中心点をつかんだりする（1）内容となっている。課題的テキストに「A 全般的な理解」の側面を取り入れた質問がないのは、この読書材が、特別な目的と形式を持ったテキストであり、全般的な理解は、すでに読む前に得られているという事情によるものであろう。

「B 解釈の展開」が最も多い。しかし、その質問の詳細を分析してみると、文学的テキストの

場合は、登場人物が得たであろう教訓を推察する(3)、登場人物の人柄をとらえる(4)、物語の中の出来事をとらえる(5)、題名について批評する(7)、物語を一言でまとめる(8)、登場人物の考えを説明する(9)、となっており、我が国における文学(物語文)のテスト項目とも非常によく似ている。一方情動的テキストの方の「B 解釈」の質問は、ウォンバットの住む場所と眠る場所をとらえる(2, 5, 8)、ウォンバットとコアラを比較する(3)、ウォンバットの行動を推察する(10, 12)、ウォンバットをとりまく人間の活動をとらえる(11)などとなっている。いわゆる理科的説明文のテスト項目に似ている。しかし、情動的テキストの「B 解釈」の質問は、読書材のどこにその解答が書いてあるのかを探すような答え方になり、むしろ、「解釈」というよりも、事実を「把握」するとか、内容を「理解」といった程度にみえる。この点については、後で考察を加える。課題的テキストの場合は、広告の情報3タイプをとらえる(2)、その内容にふさわしい情報を特定する(3, 6)、書式の使用について推測する(9)、となっている。

「C 読者とテキストのつながり」は、どのテキストにも1問ずつある。文学的テキストでは、この物語がその子供にとってときどきするものかどうかという、子供の主観的感覚を表現させるものである(2)。情動的テキストでは、ウォンバットと他の動物を比較させる(6)のであるが、「B 解釈」と違うところは、子供が自分で比較すべき動物を選定することができる点にある。子供は好きな動物や自分のよく知っている動物を挙げることができる。また、課題的テキストは、子供自身が自転車を買うという設定をし、自分にあったものを選ばせる(4)というものである。すなわち、この「C つながり」の質問は、テキストの中には書かれていない、その子供自身の好み、主観、生活で得た知識などを用いて答えなければならない。筆者は、この項目は、読書力評価において、重要な観点であると認識している。なぜなら、読書力が子供個人の好み・主観・知識などによって支えられていると考えるからである。このような考え方は、認知心理学に基づく読書研究において1980年代ごろから一般に知られるようになったが、我が国においてこれをはかる方法が十分に開発されたとは言いがたいし、あるいは、どのくらいの割合でこのような側面を読書力評価に組み込むべきかといった議論はなされてこなかったからである。NAEPの場合は、約10問に1問であるから、約10%の割合で含ませることを明示しているといえる。

「D 内容と形式の吟味」の質問項目は、今回取り上げた情動的テキストには含まれていなかった。筆者は、「内容と形式」という言葉から、いわゆる説明文の段落構成のようなものを想定していたので、この結果に驚いた。個々の質問をみても、文学的テキストは、物語の内容が変わりうる仮定を示し、その結果結末部分がどのように変化するかを想像させている(6)。一方、課題的テキストの方は、広告というテキストの目的に、形式が効率よく機能するものであるかどうかを吟味させる質問である。広告の分類の仕方を批判的にみて別の案を示すこと(1)、出品を想定して申し込み用紙の書式に書くこと(7)、さらに、その書式を改善する方法を示すこと(8)からなっている。したがって、これは、Cと同様、解答する子供たちの自由な考え・立場というものをも重視した上で、既存のものについて吟味したり批判したり代案を示させたりするものなのである。読書力評価で、このような側面が評価されていることも、NAEPの重要な特徴である。

(2) 3つの問題例における解答形式と評価規準

読書の側面と解答形式は、ある程度の相関関係がある。「C 読者とテキストのつながり」は、テキストにはない子供自身の好み・主観・知識などを示さなければ答えられないため、必然的に記述形式となる。「D 内容と形式の吟味」の場合も、これに準ずる形で、記述形式になる確率が高いといえよう。その他の「A 全般的な理解」「B 解釈の展開」は、多項選択式も、記述形式もある。

さて、まず、長文記述形式の解答の評価規準に言及したい。これらは、先に示したように4段階で採点される(表7)。それぞれについて、解答例を1つずつ示す。

このように、各質問に個々に評価規準が定められていると、複雑に思える長文記述形式の解答も、かなりの精度で評価できる。

表7 長文記述解答例：4段階の評価規準と解答例

<p>文学的テキスト 質問4「どのようにエリサとコーリは、似ていたり違っていたりしますか。この物語から例をあげてあなたの意見を説明しなさい。(20行)」</p>
<p>解答例：エリサは、コーリが氷の上に行かなくてもミニーを助け出す方法を考えたのと違って、すぐにも氷の上に飛び出していきがった。彼らは、似ているところもある。なぜなら、両方とも、犬を助けたかったからだ。エリサは、コーリよりも幼いから、たぶん、氷がどんなに危険かということ知らなかったのだろう。彼女は、とても賢くて、下に自分のコートを敷いた。コーリはそれを喜んだ。彼らは両方とも自分たちの犬が大丈夫だったことを喜んだ。</p> <p>評価：拡張的</p> <p>これらの解答は、彼らの性格のある側面(例えば、個性、気分、忍耐強さ、勇敢さなど)が認識し、エリサとコーリの明白な比較を行っている。これらの比較は、テキストのより思慮深い解釈を要求する。加えて、比較を支持する適切な事例が物語から提供されている。</p>
<p>解答例：エリサは女の子でコーリは男の子である。片方はもう片方よりも年をとっている。彼らは一匹の犬を飼っている。彼らは二人とも素敵だ。片方はもう片方よりも小さい。</p> <p>評価：必須な</p> <p>これらの解答は、物語の中で、コーリとアリサが描写されている(portrayed)面を、適切に記述している。これらは、なんらかの比較点を表しているけれども、物語の中の事例によって比較が支持されるということはない。</p> <p>(採点者のコメント：「片方はもう片方より小さい」というが、登場人物の特性を支持するために物語の中から例が示されていない。)</p>
<p>解答例：エリサとコーリは違う。なぜなら、エリサは女の子でコーリは男の子だから。彼らは似ている。なぜなら、兄と妹で、彼らは一緒に住んでいるからだ。</p> <p>評価：部分的</p> <p>これらの解答は、テキストに基づいて、エリサとコーリの、あるいはエリサかコーリの側面(例えば、年齢や大きさなど)を描いている。しかし、二人の性格を比較することを試みたものではない。あるいは、それらの解答は、より一般的な比較であったり、物語からの証拠によって支持されているものではなかったりする。</p>
<p>解答例：コーリとエリサは違う。なぜなら、エリサは、氷の上に行きたくなかったからだ。</p> <p>評価：不十分な</p> <p>これらの解答は、物語からの不適切な情報を含んでいたり、物語の理解(understanding)に基づいていないエリサとコーリについての解答者個人の意見を含んでいたりする。</p>

次に短文記述形式の解答であるが、「文学的テキスト」「課題的テキスト」は3段階で評価、「情
報的テキスト」は2段階で評価されていた。それぞれ一例ずつ示す（表8，9）。

さて、情動的テキストの短文記述形式の解答が、なぜ2段階で評価されるのかという問題を考
察してみたい。先に、筆者は、今回取り上げた情動的テキストの問題例において、「B 解釈を展
開」する質問項目が、「解釈」というよりは、読書材に書かれた部分を探すとといった事実を把握す
る問題に過ぎないのではないかという疑問を述べた。このことは、すなわち、このテキストにお
ける「解釈」が、幅のあるものではないこと、すなわち、受け入れられるか受け入れられないかの

表8 短文記述解答例：3段階の評価規準と解答例

<p>課題的テキスト 質問1「バーゲン・ベースメントの広告は、「25ドル以下」と「26ドルから100ドル」の 項目で分けられています。広告が何であるかこの情報を編成する他のやり方を示しなさい。（5行）」</p>
<p>解答例：他のやり方は、ある確かなカテゴリーのもとに、分類することだ。例えば、衣類というカテゴ リーが考えられる。衣類であるものは何でも、このセクションに入れる。この方法の長所は、商品を見つけ やすくなることだ。</p> <p>評価：完全な理解</p> <p>これらの解答は、いかに広告が用いられるかを認識し、一般的あるいは特別な用語について説明している、 少なくとも1つの提案を含んでいる。提案は、広告を再構成する結果をもたらすものであるに違いない。 すなわち、広告されている商品名が、異なったカテゴリーの見出しのもとに示されており、広告をより使 いやすくなるものである。</p>
<p>解答例：商品を、それぞれ属している別のグループに分割する。例えば、自転車とオートバイを一緒にす るなどである。</p> <p>評価：部分的、あるいは表面的な理解</p> <p>これらの解答は、少なくとも一つの提案を含んでいるが、その提案の説明がなかったり、どのように用い るかという理解が乏しいままに説明されていたりするものである。提案は、広告を再構成する結果をもた らすものであるに違いない。広告されている商品名が、異なったカテゴリーの見出しのもとに、示されて いる。</p>
<p>解答例：別の方法は、25ドル以下のものを1ページに収め、26以上のものをもう1ページに収める。</p> <p>評価：ほとんどあるいは全く理解していない</p> <p>これらの解答は、広告からの適切な情報を含んでいないか、広告についての個人的な意見が記され、新し い構成の意図にはずれてしまっているものである。その再構成の長所は説明されない。これらの解答は、 現在の構成をなんらかの方法で形式化するが、異なるカテゴリーのもとに商品まとめるということにはな らないかもしれない。</p>

表9 短文記述解答例：2段階の評価規準と解答例

<p>情動的テキスト 質問8「ウォンバットが眠るところ（area）を描写しなさい。（5行）」</p>
<p>解答例：それは、地面の下で、泥に深いところだ。</p> <p>評価：受け入れられる</p> <p>これらの解答は、ウォンバットが眠るところは、穴の端のところか、さらには／あるいは樹皮で作られた 巣であることを示している。</p>
<p>解答例：彼らは、木の中か、木の枝で眠る。</p> <p>評価：受け入れられない</p> <p>これらの解答は、「彼らはとても大きな場所で眠る」などのあいまいな表現であったり、「ウォンバットは、 木の幹で眠る」のようなテキストに基づかない情報であったりする。</p>

2段階になることを示している。

以上、3つの問題例を分析しながら、NAEPにおけるテストの全体像を描いてみた。ここからは、読書の4側面をとらえたとらえ方、それを支える短文記述形式及び長文記述形式の解答方法、記述形式を段階別に評価する方法を、我が国の読書力評価を考える時の視点として取り出すことができる。

4. 国際レベル、州レベル、その他のテストとのNAEPとの比較及び関係

最後に、NAEPの特徴をさらに明確にするために、異なる規模のテストと比較する。

4.1 国際テストPIRLSとの比較及び考察

4.1.1 PIRLSとNAEPの比較

PIRLS2001では、NAEPとの共通点、相違点を以下のように発表している⁽⁴³⁾。

(1) 共通点

- ①PIRLSもNAEPも「読書」の定義を1つの構成的 (constructive) 過程と捉えている。
- ②PIRLSもNAEPも文学を体験するための読書と情報を知る (be informed) ための読書进行评估している⁽⁴⁴⁾。
- ③PIRLSもNAEPも、解釈を発展させること、テキストを超えて (自分や実生活との) つながりをつけること、読んだものを評価 (evaluate) することを求める。
- ④PIRLSもNAEPも、子供の物語本 (storybook) から抜粋した文学的読書材 (passages) と、情動的テキストを、読書力評価のためにとして用いた。
- ⑤PIRLSもNAEPも、多項選択式と、記述解答の質問を用いており、その割合は類似している。表10にその割合を示す。

(2) 相違点

- ①PIRLSで用いた読書材の長さは、平均して547語であるが、NAEPは1000語である。
- ②Fry Readability Analysis という読みやすさを表す指標を用いた分析では、PIRLSがグレード5.0、NAEPがグレード6.9と、PIRLSのほうが易しいという結果が出ている。
- ③やはり、テキストの難しさとそのテキストに向けた学年を示す Lexile という分析では、PIRLSの読書材は3年生から4年生向き、NAEPは4年生から5年生向きとなっている。
- ④PIRLSは、NAEPよりもテキストに基づく解釈を要求する傾向がある。NAEPは、読んだものと、子供のその他の読書経験や知識との関係、読んだものについて批判的に評価することに強調点を置く。

表10 PIRLSとNAEPの解答形式比較

解答形式	PIRLS	NAEP
多項選択式	47%	45%
短文の記述解答	44%	45%
長文の記述解答	8%	10%

4.1.2 PIRLS と NAEP の関係についての考察

これらを総合すると、まず、PIRLS も NAEP も、読書に対する構成的なとらえ方や、4つの側面など、2つの読書材のとらえ方など、類似点が多い。相違点もないわけではないが、それらの相違点は、類似していることを前提にして成り立っているのである。したがって、NAEPの国内標準をみて、国際標準を視野に入れる考察を展開することは、研究の方法として十分可成り立つといえる。本稿は、国際標準を作るのが目的ではなく、国際標準を視野に入れた、我が国に通用する読書力評価（それは、我が国における国内標準へと発展するかもしれない）を考察するわけであるから、このような類似点の確認は、大きな意味を持つ。

相違点は、NAEPの読書材が長くて難しいことから来ていると考えられる。このPIRLSの読書材の語数は、国際テストという制約や事情の中で決定された数字であると想定される。しかし、筆者としては、どのような読書材を用いるかは、読書力評価を考察する上で非常に重要な要素であると考えている。アメリカには、Readability や Lexile という読みやすさ・難易度を測る指標が開発されているが、我が国には、そのようなものはない。教師は一般的に、漢字の多さ、語彙の難しさ、文章の長さなどで、難易度を把握しているようであるけれども、客観的な指標が十分に開発されているとは言いがたい⁽⁴⁵⁾。加えて、難易度の中には、子供の興味や生活実態に近いかどうかという視点も含まれなければならない。したがって、読書材の難易度の研究は、それ自体、様々な困難点をかかえている。

4.2 州テスト ISAT との比較及び関係

4.2.1 ISAT の概要

ISAT だけが州レベルのテストではなく、それぞれの州でそれぞれにテストを開発している。しかし、全州を比較の対象にすることは、本稿の目的ではないので、ここでは、NAEP という国内標準テストの性質を示すための一例として、イリノイ州の ISAT を取り上げる⁽⁴⁶⁾。

ISAT は、3年生、5年生、8年生が年度末（4月～5月）に受験する。子供にしてみれば、このテストの結果によっては、次の学年への進級が問題視され、夏休み中に補習を受けなくてはならなくなったり、留年したりしなければならない、子供にとってプレッシャーのかかる、厳しいテストである⁽⁴⁷⁾。

3年生は、40分間のテストを3つ行う。1つは、14問の語分析（word analysis、単語の音や意味についての質問。問題例を表11に示す）、1本の読書材（passage）に対する14～16問の多項選択式の質問項目からなる。もう2つは、それぞれ、1本の読書材に、17～20問の多項選択式の質問項目と、1問の長文記述解答形式の1問からなる。5年生と8年生も、やはり40分間のテスト

表11 ISAT の語分析問題例

- | |
|---|
| 1. Circle と同じ音 (sound) で始まるのは,
(A) careful (B) shorten (C) selling (D) classes |
| 4. Unable の意味は,
(A) very able (B) too able (C) not able (D) almost able |

を3つ行う。1つは、2本の読書材 (passages) に対して、それぞれ14問の多項選択式の質問項目とからなる。もう2つは、それぞれ1本の読書材に対する、17～20問の多項選択式の質問項目と、1問の長文記述解答形式の1問とからなる。すべての学年において、選択肢は4つずつある。長文記述解答は、子供が、自分とのつながりをつけたり (making connection)、論理的結論を表現したりする手段として作られており、全体の得点の15%を占める。長文記述解答は、0～4の5段階の評価規準に基づいて評価される⁽⁴⁸⁾。

読書材は、情報獲得の読書、文学体験の読書を反映するもので、子供にとって興味があり、学年に適切なレベルで、新聞 (季刊のもの)、ショート・ストーリー、小説などからとられる。

このテストで何を読書のどんな範囲を評価するのかについては、イリノイ州のスタンダード (ゴール1, ゴール2, ゴール5, さらに下位項目をアルファベットで示すけれども、詳細は省略する) に基づいて⁽⁴⁹⁾いる。以下のように整理されている。

1. 理解：文学作品 (literary works) (スタンダードのゴール 1B, 1C, 2A, 2B, 5A, 5B)
2. 理解：情動的資料 (informational sources) (同, 1B, 1C, 2A, 5A, 5B)
3. 方略の応用：考えを発展させること (同, 1B, 1C, 2B, 5A)
4. 方略の応用：テキストから推論すること (同, 1B, 1C, 2A, 2B, 5A, 5B)
5. 語彙に関わる質問 (同, 1A)
6. 語分析に関わる質問 (同, 1A)

これらは、NAEPの4つの読書の側面とは異なる。特に、5～6は、NAEPでは全く扱わないものである。

4.2.2 ISAT と NEAP の比較と考察

以上、ISATとNAEPの類似点・相違点は次のようにまとめられる。類似点は、文学的読書材と情動的読書材を扱っていること、考えを発展させることを読書の一つの能力として扱っている点である。相違点の方が目立つ。まず、問題の内容で、語彙・語分析という、語そのものについての知識を問うていることがあげられる。また、短文記述問題がないことも大きな違いである。さらに、40分間のテストを3つということ、国際・国内標準のPIRLSやNAEPに比べて、評価にかけている時間が長いということが挙げられる。

4.3 その他のテストとの関係

今回扱った、NAEP, PIRLS, ISATだけがアメリカの読書力評価のすべてではない。さらに小さい単位、学校や教室を単位にして考えると、実に様々な評価方法が開発されている。一般的に、単位が小さくなるほど、読書力評価が計ろうとする範囲は、特化する—特別な読書力あるいは読書の側面を想定し、それを評価しようとする—傾向がある。例えば、先ほどのISATでは、語分析を行わせていた。最近定着しつつあるポートフォリオ評価は、読書力の評価としても注目されている。語彙力テスト、音読させてどれほど間違えずに読み通せるかをはかるランニング・レコード、その音読がどれほどすらすらできるか (fluency) を評価するパフォーマンス・テストと呼ばれる方法、語の発音 (sounds)、綴り (spelling)⁽⁵⁰⁾、読書量と読書の理解度を測るコンピュータ

を用いた評価⁽²⁾など、様々なテスト・評価ツールが存在する。アメリカの教育界では、業者がこれらの評価ツールを数多く開発し、校区 (district)・学校・教室がこれを消費するという構造になっている。本稿では、これらを分析対象にしないが、多様複雑な評価の上に、国内標準、国際標準がなりたっているという点について言及しておく。

5. 結論

5.1 我が国の読書力評価と読書指導に対する示唆的視点

本稿では、国際標準の読書力評価を考察するために、アメリカの国内標準テスト NAEP を分析して考察した。その結果、以下の視点を、我が国の読書力評価、あるいは読書指導に示唆を与えるものとして、考えたい。

- (1) 読書に対する子供の感じ方・考え方を読書力評価の一部としてみること。
- (2) 話をしたり、様々な形式の文章を書いたりすることを、読書力、あるいは読書力に影響を与える要因としてみること。
- (3) 自分で読んできたものが学校の授業において生かされる場面を作るということ。
- (4) 家庭だけでなく、学校における読書活動を読書力に影響を与える要因としてみること。
- (5) (4)のような考え方に基づいて、読書活動を促進する様々な機会をカリキュラムに取り入れること。
- (6) 「文学的テキスト」「情動的テキスト」だけではなく「課題的テキスト」のように、生活に密着しているもの読む機会を、読書活動として見、評価するということ。
- (7) 評価の目的・経済性及び評価者と評価対象の子供の関係にもよるが、5行、20行という長さの違う記述によって、読書力を評価すること。
- (8) (7)に関連して、長文記述を、規準に基づいて数段階に評価するという評価の仕方。
- (9) 読書力を、「A 全般的な理解」「B 解釈の展開」「C 読者とテキストのつながり」「D 内容と形式の吟味」と4つに分解してとらえる、そのとらえ方。また、それらのうち、特に「C 読者とテキストのつながり」「D 内容と形式の考察」に強調点を置くということ。
- (10) (9)に関連して、読書力には、語彙力、つづり力などの様々なとらえ方があり、国際標準、国内標準においては、そのような細かい個々の力ではなく、全体的な読書力が問われるということ。しかし、これらを、読書に対する考え方、読書行動、学校のカリキュラムと関係づけてとらえるということ。

5.2 課題

本稿も足立 (2003) 同様、「国内標準」を検討することで「国際標準」にむけての読書力評価を研究したが、以下の点が課題として残った。

- (1) 読書力評価に、授業中の読書や、自分の読書が授業に生かされることを入れていこうとすることは示唆的であったが、逆に言うと、授業形態やカリキュラムが異なるところでの標準を作るのは、難しいこと。

- (2) 課題的テキストを読書力評価に取り入れていくということは十分に受け入れられるが、テキストによっては、その国の文化独自のもので、これを国際標準とするのが難しい場合があるということ。
- (3) 読書力評価に用いる読書材の長さについて、どのような基準を作ったらよいかという問題。
- (4) 読書力評価に用いる読書材の難易度をどのように測るかという問題。

注

- (1) 足立幸子(2003) 読書力評価の国際標準にむけての一考察—イギリスのナショナル・テストを中心に— 人文科教育研究30 pp.95-112. 問題意識については、この論文で詳しく論じた。
- (2) 国立教育政策研究所(2002) 生きるための知識と技能—OECD 生徒の学習到達度調査(PISA) 2000年調査国際結果報告書 ぎょうせい なお、この論文の執筆中に、PISA2003の調査報告書が出版されるという情報を得た。しかし、2004年3月現在、未入手である。
- (3) PISA 調査は、「学校で学習した教科内容や理解度や定着度をみるというよりも、子どもたちが将来社会に参加したり、生活していく力をどの程度身につけているかをみる」(同上、はしがきより)のものであり、学校における読書指導を改善する示唆を与えてくれるようなものではない。
- (4) 2004年3月の時点で入手できたものは、The Nation's Report Card Reading 2002, The Nation's Report Card Reading Highlights 2003, NAEP Demonstration Booklet Grade 4 Reading and Mathematics 2003, NAEP Demonstration Booklet Grade 8 Reading and Mathematics 2003 の4点である。これらをもとにウェブで情報を補った。また、資料収集の基本作業として、氏名は出せないが、NAEPの作成に関わる2名の研究者(それぞれ役割が異なる)にインタビューを行い、差し支えない範囲の回答を得た。インタビューは筆者のNAEPの基本的な理解に役立った。
- (5) URLは、<http://nces.ed.gov/nationsreportcard> である。ここで、様々な問題例を見ることができる。
- (6) NEAP Demonstration Booklet Grade 4 Reading and Mathematics 2003 pp. 16-29. を和訳し、選択肢を省略。
- (7) NEAP Demonstration Booklet Grade 4 Reading and Mathematics 2003 p. 5 より。
- (8) テストの問題で質問の前に示される文章を、本稿では、読書材と呼ぶことにする。
- (9) NEAP 2002 Reading Report Card p. 4 より、一部改変。
- (10) NAEP Demonstration Booklet Grade4 Reading and Mathematics 2003, p. 5 より、一部改変。
- (11) NEAP 2002 Reading Report Card p.5 より、一部改変。
- (12) このほか、実際の子供の解答の中には、解答をしそこなった場合の Omitted Item に分類

される場合もある。しかし、本稿では、子供の成績そのものではなく、評価の仕方そのものに関心があるので、このような分類については、特に言及する必要がないと考える。

- (13) NCES (2003) International Comparisons in Fourth-Grade Reading Literacy: Findings from the Progress in International Reading Literacy Study (PIRLS) of 2001 p. 30 の記述をもとに、筆者が再構成した。
- (14) 4年生だけを比較した場合は、このようになる。しかし、8年生・12年生を含めて考えた場合には、NAEPの方には、これらの他に、課題を達成するための読書が含まれる。筆者としては、この「課題を達成するための読書」も、NAEPの重要な特徴であると考え。インタビューでは、これらの読書の割合をどうするかが、また、インターネットなどの活字媒体でないものを取り込んでいくべきか、そうだとしたらどのようにすべきか、ということが、NAEP作成者にとっての研究課題であるということを知った。
- (15) 学年別漢字配当表を参照することはできる。例えば、4年生までで学習しない漢字の割合などで、難しさをはかるという方法である。しかし、4年生までで学習しない漢字をすべてひらがなにしてしまったら、そのテキストは、簡単になるのかという問いが生まれてくる。その場合は、テキストの内容的難しさではなく、表記上の難しさを測定しているわけである。語彙の研究及び語彙指導の研究は様々になされているが、それが読書材の難しさをはかる方法としては定着しているわけではない。阪本一郎氏の「教育基本語彙」選定の研究が参照できるが、語彙は時代によっても変化する。また、難易度には、単に難しいというだけでなく、子供の興味や生活実態に近いかどうかという視点も含まなければならない。したがって、本稿では扱っていないが、読書材の難易度を測定するということが自体が大きな研究テーマであると、筆者は認識している。
- (16) Illinois State Board of Education (2002) Illinois Standards Achievement Test Sample Reading Materials 2003 を資料とした。
- (17) このようなテストは、その性格から、一般的に、high-stakes test と呼ばれている。NCLB法の施行以後、子供の学習状況について、親に対して説明する責任 (accountability) を満たすために、high-stakes test がより厳しく行われるようになった。これは、学校や教師の努力の成果をはかるものとも見られ、教師にもプレッシャーを与えるものとなっている。
- (18) 評価の規準 (criteria) を段階ごとに示して表にしたものをルーブリック (rubric) という。アメリカでは、様々なことがルーブリックを用いて評価されている。
- (19) スタンダード (標準) に基づいてテストを作るという発想は、学習指導要領に基づいて作られている我が国における国立教育政策研究所の教育課程実施状況調査に近いと考えられる。ただ、ISAT は該当学年の子供全員が受験し、その子の進級に関わるという点において、教育課程実施状況調査とは異なる。
- (20) 特化した読書力を複合的にはかる評価ツールもある。例えば、Leslie, L., & Caldwell, J. (2000). Qualitative Reading Inventory-III. New York: HarperCollins. は、ランニング・レコ

- ード（読書速度を測定するので fluency のテストにもなる）、スペル・テスト、語彙力テスト、作文テストなど、読書力評価の様々な側面を含んだ評価ツールの一つで、評価者と子供が1対1で、その子供の実年齢（学年）に対する読書力年齢（学年）をはかるものである。
- (21) 例えば、読んだ本について10問の質問に答えることで、その本を「読んだかどうか」をはかる Accelerated Reader などが挙げられる。これらは、業者によって開発され、学校規模・教室規模で導入されている。